

工業系高校人材育成コンソーシアム千葉
会 長 小 野 祐 司

梅花の候、皆様におかれましては、ますます御清栄のこととお喜び申し上げます。日頃より、本事業にひとかたならぬ御厚誼を賜り誠にありがとうございます。

本年も無事に第12回生徒研究発表会を開催できましたことをご報告致します。昨年同様に「動画とポスター」による発表と致しました。

研究発表のテーマは「製作（制作）」が半数を超え、さすが工業系と嬉しく拝見と審査をさせていただきました。発表からは高い工作力と発表力を発揮した立派なチームもあり驚きました。

さて、「研究」とは「人類がまだ知らない何かを見つけて、知の巨人を成長させること」と言われます。

「万有引力の法則」で有名なアイザック・ニュートンがロバート・フック（「フックの法則」で有名です。）に宛てた書簡の一節に「私（ニュートン）がかなたを見渡せたのだとしたら、それは巨人の肩の上に立っていたからです。」とあります。「巨人の肩に乗る」は12世紀、仏の哲学者ベルナルの言葉とされています。知の巨人の肩に乗るまでの地道な勉強がつくづく大切であるということの意味しています。新しい知見は、先人たちの努力の上に成り立つことであり、私たちも「研究」に取り組むに際して、たゆまぬ努力をする必要があることを示唆しています。

またこれからの課題研究は、単なるものづくりに留まらず、産・官・学と積極的に交流を図り、地域と連携して研究を進めることが、大事になってくることと思います。研究の背景をしっかりと捉えて、研究を進めてもらいたいと思います。

また今回の審査は、参加された生徒のみなさんとコンソーシアム会員様（企業23社、大学・関係機関36団体、工業系高校10校に加えて、市原市立湿津中学校の生徒の皆さんによる評価も加算されていますので、より幅広い視点からの評価となっていることをお伝えいたします。

最後になりますが、協力して頂きました企業様大学様をはじめ関係された皆様に深く感謝申し上げます、挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。